

四島のかけ橋

第52号
平成25年1月1日
(火曜日)

発行所
北方領土返還要求運動
神奈川県会議
〒231-8588 横浜市中区日本大通1
TEL 045-210-1111 内線3618
発行人 綾井 祐一

第28回県民大会を開催

会場は横浜情報文化センター

平成二十四年十一月二十日(火)、横浜市中区の「横浜情報文化センター」情文ホールにおいて、第二十八回北方領土返還要求運動神奈川県大会を開催しました。

会員をはじめ百七十六名

が参加した今大会では、主催者の竹内会長の挨拶の後、来賓の黒岩祐治神奈川県知事及び独立行政法人北方領土問題対策協会の荒川研理事長から、当県民会議の活動への敬意と今後の運動への激励の言葉を頂き

報告を行いました。昨年九月十三日から十七日まで、国後島及び色丹島を訪問した際の島の様子や在住しているロシア人との交流などについて、写真を交えて報告が行われました。

記念講演は、元外務省欧亜局長の兵藤長雄氏から「十二年目のプーチン政権

2月7日(木)は「北方領土の日」

灯台

推進委員報告(その五)

一八五五年の二月七日(旧暦では安政元年十二月二十一日)、伊豆の下田において日露通好条約が調印された。この条約で日露両国の国境が平和裏に定められ、北方四島が日本の領土として初めて国際的に明確にされたのです。そうして経緯を踏まえて、北方領土問題に対する国民の関心と理解をさらに深め、全国土返還要求全国大会が開催されます。

北方領土返還要求運動神奈川県会議は昭和六十年十一月二十四日に設立されました。初代会長は第七十八代県議会議員長の石渡清元氏でした。現在は第五代県議会議員長の竹内英明氏です。から二十八人の議長さんに会長をお願いしたことになります。設立当時は特殊な団体の運動という見方が強く、また、北方領土がソ連に不法占拠されていることすら知られていない状況でした。

「十二年目のプーチン政権と北方領土」

(講演要旨)

元外務省欧亜局長 兵藤 長雄氏

※兵藤氏には、プーチン政権や現在のロシアの現状などお話しいただきましたが、紙面の都合上、北方領土に関する部分を抜粋して掲載しました。

硬化するロシアの姿勢

対日戦勝記念日の法制化

ロシアは二〇一〇年に対日戦勝記念日を設ける法律をつくり、九月二日をその日に定めました。これはロシアがずっと考えていたことですが、日本は強く反対し、これまで実現していませんでした。しかし、二〇一〇年に法制化されたので

れで引き返す。俺の任務はもう終わった。これを見てくれ」と言って、同行した日本の軍人にモスクワからの指令書を見せたのです。それには「十八島、ウルフ島までを占領しろ」と書いてありました。これをみても、当時、ソ連が北方四島を取ることを全く考えていなかったことは、非常に腑に落ちているのです。

この時まで、ソ連は、北方四島はアメリカの占領下になるという認識でした。ところが、アメリカ軍は北方四島はおろか、北海道にすら来る気配がないと結論づけ、その後、軍を動員して北方四島に上がったとき

「えとぴりか」 旅券・ビザなし交流や自由訪問に使用する船舶



迎春

最終後、オルロフという司令官が千島列島十八島を解放しました。占守島を除いては抵抗がなく、あつという間にウルフ島まで来て、いよいよ択捉島となった時、オルロフ司令官は「こ

国の司令官が休戦のドキュメントにサインした日です。そこにはソ連も参加していません。その日までソ連は日本と戦争をしていました。この対日戦勝記念日の法制化を主張したわけです。それをついに二〇一〇年にやっつけました。

私の現役時代は、まだまだ日本の国内は一つにまとまっていたと思うのです。しかし、それが今日、残念ながら、非常にばらばらになつてきているということ、ロシアは鋭く見抜いているのではないのでしょうか。

横濱市開港記念会館に加盟四十団体を集め総会が開催され、相馬元治県議会議長を会長に信任という見出しで、当時の県民会議副会長である、山口繁氏(全日本労働総同盟神奈川県地方同盟書記長)を議長とし、同じく副会長の剣持全祐氏(日本青年会議所神奈川県ブロック協議会会長)の閉会挨拶で締めくくるとあります。また十月十五日から十八日にかけて「北方領土視察研修」を行うとあります。この視察事業も現在まで継続して行われ、特に、神奈川県農業協同組合中央会及び連合神奈川の皆様には毎年多くのご参加をいただき感謝しております。

日本国内の迷走

ロシアがそういう強気になった背景というのは、日本国内の迷走があると思います。平和条約と北方領土を切り離そう、「二島だけ先に返してもらい、その後、交渉して平和条約を締結しよう」とあるいは面積半分論とか、三島返還とか、そういうことがいろいろと行われています。

こんなことを平気で向こう側が書くようになってきているという事は、私はやはり憂慮すべきことだと感じます。

二百海里交渉に学ぶ

最近の議論を聞いてみると、学識者の中ですら、本当に北方領土問題の本質を理解しているのかと思うような議論をされる方が出てきています。例えば四千里口もある中国とロシアの国境問題が解決しましたが、日口間でも同様に、非常に大ざっぱに言えば、フィフティ・フィフティでどうだという議論をする方がいるわけです。私は、それは根本的な理

解が違っていていると思います。北方領土問題というのは、中国とロシアとの線引きが、川によって左側に寄ったとか右側に寄ったとか、そういう問題とは全く別の問題です。

ドイツとフランスの領土問題もずっと長くもめてきましたが、ドイツとフランスの国境線は、ある時期にはフランスがずっとドイツ側に寄せていたり、ある時期にはドイツ側がフランスのほうに出ていたり、一つではないのです。その時のいろいろな関係によって変わってくる。それと同じように見るのは、北方領土問題を根本的に理解していない証拠ではないかと思

うのです。私がよく思い出すのは、日本とソ連との二百海里交渉のことです。私は当時ソ連に居て、その交渉に当たったのですが、ソ連は北方四島を自国の二百海里の中に入れて法律をつくって、これで問題は解決したというのを一方的に言い始めました。

それに対して、日本も二百海里に水域を拡大して、その中に北方領土を入れるという事で、四つに組んで交渉を始めましたが、ソ連はものすごく強気で、我々の言うことを聞こうとしない状況でした。

これは私の個人的な意見ですけれども、最終的にソ連が考え直そうと思った理由は、この問題で日本の国論が本場一つになったこととです。日本政府の主張を日本共産党も含めた全政党政が支持しました。

ソ連に日本の立場を説明するため、全政党政の代表がモスクワに来ました。そういうことは後にも先にもありません。その時に、日本共産党がこう言ったのです。「自分たちは日本政府と同じ立場に立つことはできないのだけれども、この問題に関しては、日本政府の立場と日本共産党の立場は全く同じだ。」言葉を交えて言えば、これは日本の国民が一致したものだと

いうことを言いました。これが結局、最終的にソ連が折れて一步下がった理由ではないかと今でも思っています。

解決へのタイムリ

北方領土問題は半世紀たつたからもうだめじゃないかと言っている人もいますが、そういう近視眼的な思考で対処すべき問題ではありません。返還の可能性というのは、その時々々の国際情勢、対外情勢等々で、やはりこの時だというのがあります。私の個人的な経験で言えば、欧亜局長をしていた時に、ゴルバチョフが来日しましたが、彼はかなり前向きな姿勢を示し、日本の主張とロシアの主張の両方が入った資料集を作りました。そこには、領土問題の両国の主張がはっきりと出ています。そういうことができた時代があるのです。また、ゴルバチョフ来日後、当時の中山太郎外務大臣に付いてモスクワに行った時に驚いたことがあります。ルツコイというロシア共産党の副首相の執務室に行くと、彼の執務室の後ろに極東の地図があったのですが、驚くなかれ、その地図の北方四島は日本領に塗られていたのです。

私は、北方領土問題についての日本側の認識をもう一回整理し直して、北方領土問題はこういう問題なのかということを確認する

必要があると思います。これは単に旧島民の問題ではありません。あくまでも日本全体の問題だという認識に立って、国内体制の立て直しを図るべきだと思うのです。

交渉というのは、その時々々の条件が熟して、本当にここで解決しようという勝負どころがあると思うのです。

ゴルバチョフの時代にそれが少し出てきました。しかし、その時は残念なことに、日本の首相がどんでん変わるなど、日本側の体制が整っていませんでした。一九九〇年代の半ばに橋本龍太郎というかなり実力のある首相が出てきた時には、エリツィンが政治的にほとんど影響力を失くして、なかなかタイムリングが揃わない。タイムリングは大変重要な要素だと思うのです。

国民の一致した思いを

今後、日本の新政権下で交渉が始まるためにはまだ時間が必要でしょうし、その間にプーチンがどういふふうに変わっていくかわかりませんが、少なくとも新しい政権がどういう考え方を持っていくかということを見極めながら、私どもは考えていかなければなりません。

その時に必要なのは、北方領土問題の本質を、新し

い首相にも本場によく理解させなければいけないということとです。その努力をした上で、これからどうするかというのを日本国民全体として考えていく、そういう非常に重要な時期に来ているのではないのでしょうか。

兵頭長雄氏
プロフィール
元外務省欧亜局長、元駐ベルギー大使、「善意の架け橋」ポランド魂とやまと心(文芸春秋社)、「クレムリン極秘文書」に見るカチンの森事件の真相とその後(ソ連・ポーランド関係の側面)(外交フォーラム)など
著書多数
東京大学法学部卒

「北方領土パネル展 2013 IN かながわ」開催

日時：平成25年2月19日(火) 12:00~17:00
20日(水) 9:00~17:00
21日(木) 9:00~15:00
※全日入場無料
場所：かながわ県民センター1F 展示場
内容：パネル36点を展示・ビデオ上映・北方領土返還の署名等
主催：北方領土返還要求運動神奈川県民会議

大学生への啓発事業「タダコピ」を今年も神奈川県内15大学19キャンパスで実施します

川県の4都県民会議が合同で実施します。

「タダコピ」とは、学生が無料で利用できるコピー機を大学に設置し、そのコピー用紙の裏面に広告を掲載する仕組みで、昨年度、初

い首相にも本場によく理解させなければいけないということとです。その努力をした上で、これからどうするかというのを日本国民全体として考えていく、そういう非常に重要な時期に来ているのではないのでしょうか。

今年度、二月七日の「北方領土の日」を含む一月十五日(二月十四日)に、東京、加し、3デザインで実施予定です。

「知る事」が四島返還の第一歩

平成二十四年度北方領土に関する標語〈最優秀賞〉

千葉県柏市 加藤晃浩氏

「タダコピ」とは、学生が無料で利用できるコピー機を大学に設置し、そのコピー用紙の裏面に広告を掲載する仕組みで、昨年度、初

川県の4都県民会議が合同で実施します。

◇竹島や尖閣諸島などの領土問題が連日報道されていますが、かつて北方領土問題でマスコミがこれだけの報道をしたでしょうか。一昨年十一月に当時のメドヴェージェフロシア大統領が国後島を訪問したときだけだと記憶します。いずれも相手の国が行動を起こしたことを報道したことに起因しています。日本人が居住していた北方領土四島がロシアに「不法に占拠」されているというのを忘れてはならないし、返還が実現するまで粘り強く交渉を続けることが必要です。

編集後記

「タダコピ」とは、学生が無料で利用できるコピー機を大学に設置し、そのコピー用紙の裏面に広告を掲載する仕組みで、昨年度、初

川県の4都県民会議が合同で実施します。

「知る事」が四島返還の第一歩

平成二十四年度北方領土に関する標語〈最優秀賞〉

千葉県柏市 加藤晃浩氏

◇竹島や尖閣諸島などの領土問題が連日報道されていますが、かつて北方領土問題でマスコミがこれだけの報道をしたでしょうか。一昨年十一月に当時のメドヴェージェフロシア大統領が国後島を訪問したときだけだと記憶します。いずれも相手の国が行動を起こしたことを報道したことに起因しています。日本人が居住していた北方領土四島がロシアに「不法に占拠」されているというのを忘れてはならないし、返還が実現するまで粘り強く交渉を続けることが必要です。

編集後記

「タダコピ」とは、学生が無料で利用できるコピー機を大学に設置し、そのコピー用紙の裏面に広告を掲載する仕組みで、昨年度、初

川県の4都県民会議が合同で実施します。

「知る事」が四島返還の第一歩

平成二十四年度北方領土に関する標語〈最優秀賞〉

千葉県柏市 加藤晃浩氏

◇竹島や尖閣諸島などの領土問題が連日報道されていますが、かつて北方領土問題でマスコミがこれだけの報道をしたでしょうか。一昨年十一月に当時のメドヴェージェフロシア大統領が国後島を訪問したときだけだと記憶します。いずれも相手の国が行動を起こしたことを報道したことに起因しています。日本人が居住していた北方領土四島がロシアに「不法に占拠」されているというのを忘れてはならないし、返還が実現するまで粘り強く交渉を続けることが必要です。

編集後記

「タダコピ」とは、学生が無料で利用できるコピー機を大学に設置し、そのコピー用紙の裏面に広告を掲載する仕組みで、昨年度、初

川県の4都県民会議が合同で実施します。

「知る事」が四島返還の第一歩

平成二十四年度北方領土に関する標語〈最優秀賞〉

千葉県柏市 加藤晃浩氏

◇竹島や尖閣諸島などの領土問題が連日報道されていますが、かつて北方領土問題でマスコミがこれだけの報道をしたでしょうか。一昨年十一月に当時のメドヴェージェフロシア大統領が国後島を訪問したときだけだと記憶します。いずれも相手の国が行動を起こしたことを報道したことに起因しています。日本人が居住していた北方領土四島がロシアに「不法に占拠」されているというのを忘れてはならないし、返還が実現するまで粘り強く交渉を続けることが必要です。

編集後記

「タダコピ」とは、学生が無料で利用できるコピー機を大学に設置し、そのコピー用紙の裏面に広告を掲載する仕組みで、昨年度、初

川県の4都県民会議が合同で実施します。

「知る事」が四島返還の第一歩

平成二十四年度北方領土に関する標語〈最優秀賞〉

千葉県柏市 加藤晃浩氏

◇竹島や尖閣諸島などの領土問題が連日報道されていますが、かつて北方領土問題でマスコミがこれだけの報道をしたでしょうか。一昨年十一月に当時のメドヴェージェフロシア大統領が国後島を訪問したときだけだと記憶します。いずれも相手の国が行動を起こしたことを報道したことに起因しています。日本人が居住していた北方領土四島がロシアに「不法に占拠」されているというのを忘れてはならないし、返還が実現するまで粘り強く交渉を続けることが必要です。

編集後記

「タダコピ」とは、学生が無料で利用できるコピー機を大学に設置し、そのコピー用紙の裏面に広告を掲載する仕組みで、昨年度、初

川県の4都県民会議が合同で実施します。

「知る事」が四島返還の第一歩

平成二十四年度北方領土に関する標語〈最優秀賞〉

千葉県柏市 加藤晃浩氏